

# 國民學校より幼稚園にのぞむ

東京女高師附屬國民學校訓導

前 田 四 郎

## 一、子どもを見つめて——子供 の理念

幼稚園にしろ國民學校にしろ子供の無心に遊ぶ姿——砂山を作り、草木を植ゑ、ミビかふ蝶に心を躍らせ、水晶のすだれのごとく降る春雨にきものゝぬれるを忘れ、追ひつ追はれつ鬼ごつこに興じ、一枝の名もなき野邊の花を胸にかざして喜ぶ子供の姿、愛らしき瞳を輝かして遊びに、學びに専念する様を見ては、子供によせる古今東西の名言は少しさしないが、誰しも聖なる氣持に打たれるに相違あるまい。子は家の子として、何物にも代へられぬ所謂子寶である。萬葉の歌人、山上憶良の『銀も黄金も玉も何せむにまされるたから子にしかめやも』の歌を二三度口ずさんでみるに、ごっこはなしに無心に遊ぶ子供たちが、何物にもかへられぬ子寶であるここにしみじみ感ずる。

子供がたから子である所以のものは、たゞ單に父母の子であるといふ意味ばかりではなく、今や廣くなり發展しつつある日本の國の根柢であり、源泉であるここに存する。

換言すれば、日本の子供は、懼れ多くも陛下の赤子であるからこそ、たから子なのである。

國民學校は、かゝる陛下の赤子を鍊磨成して國民として立派な人物になり得る基礎を作る處であるが、やがては國民學校に入學する幼稚園にあつても、たゞ、ごっこのおぼつちやま、おじやうさまをおあづかりしてゐるのだといふ理念からは去つて、陛下の赤子を——たから子を導くのだといふ理念に立脚して無限なる保導に當るべきものこそ考へる。

そして、かくの如き子供の教育に當る先生は、國家の期待ご親の信頼を一身に擔ひ、子どもの心身の發達に即して、國民鍊成の第一歩を踏みだす光榮と感激に自ら燃え、自ら沸騰するこゝまがのぞましい。

## 二、萎縮してゐない子——大國 民の萌芽

國民學校は、皇國の道に則りて、初等普通教育を施し、國民の基礎的鍊成をなすを以て目的とする——のである。

基礎的鍊成、皇國の道の修練、心身一體的等々の精神は、新しく國民學校教育に活かしたものとてさり入れられて、斯の道の實踐に培はれてゐるが、初一に入學せんとする幼稚に、國民學校はかくかくのためにかくあるべしとなして、如上の精神を早がつてんにさり入れ、乃至は加味して、鍊成々々で強いて、そのため天真無垢な子供らしさを壓へるが如きことあつては絶対にならぬ。

幼稚は獨自の存在を意義を持ち、彼等の天真爛漫の姿こそ全體なのである。苟も幼児は、大東亞の盟主となり、世界新秩序建設の指導的地位に立つべき我が國の將來を擔ふ大國民の萌芽であれば、特に雄渾博大な氣宇を育成すべきである。初一の兒童の中には、入學當初に於て往々登校をいやがる者がある。從來の小學校に於ても同様なことがあつた。國民學校では賤を重視してゐる。言語訓練が從來以上強く要求されるやうになつたが、子供にまつてそれはけつして重荷であるべき性質のものではないのが國民學校の新精神である。幼稚園から來たものの中には、比較的に入學當初先生を怖がるやうな小心の者が少く、また、學校の壯大な建築に畏縮するやうな者も殆んどなく、不明の發熱を起すやうな者もないのは、まことに結構なことであつて、子供を萎縮させない指導の仕方の結晶としてうかゞひ知ることが出來、うれしいかぎりである。

子供は大國民の萌芽であれば、活潑で子供らしく、明るくて無邪氣な、童心にみちみちたおほらかな子供が、國民學校ではほしいのである。

### 三、いそぎすぎてはゐないか——

#### 知識の問題

幼稚園のある一部に於ては、國民學校教育の考へ方、仕方とは正反對の方向を示してゐる傾向なきにしもあらずの感がする。國民學校の教育に於ては、知識を第一義的な對象物としてはゐる。從來の小學校も國民學校の異なるころの一はこゝにあるのだ。私はかく考へるのであるが、第二義的にはこゝにかく、第一義的には問題の對象としてゐない。換言すれば、國民學校は結果としての知識を意識の上にはおかぬのである。もしもこゝ一部の幼稚園に於て結果を早くのぞみ、もの知りげな子供をしこむをもつて天職なりを自負する者あるとするならば、それは、國民學校教育の方針とは全く打つてかはつて、相異なるものである。こゝいふばかりではなく、教育の考へ方に於て範疇を異にし、既成の舊い觀念の遊戯にたはむれるあはれな孤兒といはねばならぬ。字が早く書けるやうに、繪が早くかけるやうに結果に走るのではなく、知識の求め方、熱こくものごを追求せねばやまぬ態度を、子供ながら、各個性に即して養つてほしいと思ふ。例へば、發音もアクセントが

正しくなつてゐないのにもかゝはらず、先を急ぐ馱馬の如く、文字を教へ込んでしまふが如き一現象は、盲目的親の欲望にかられて、結果のみに落ち入つた不自然の姿を示す何ものにも外ならぬ證左である。子供の遊びの生活の中には、見るもの聞くもの悉くが不思議に感じ、面白く思はれ、なつかしい恩物であらうが、遊びの全生活の中から、いろいろの質問ひかけ、疑問とするところを話しかけてくるに違ひない。その場合、先生は幼児の質問に對して、たゞ答へをあたへて満足させて、知識を豊富にしてあげるまいふばかりでなく、むしろこれより誘導して、草木に水を與へ、手入れをし、そだてはぐむ態度を養ふこと——知識の求め方に關する導が肝要ではないか考へる。平明な言葉ではあるが、結果を急がず、各兒の能力に即して、すなほに伸ばしてほしいのである。能力なみに伸ばしてほしい。

#### 四、からだについて——健康の問題

幼稚園から來たものに特に多い傾向が認められるといふ意味あひのものではないが、國民學校の低學年を受け持つてみるに、子供たち一般に次のやうな共通の抽出事項がある。それは、病氣に對して、神經過敏になりすぎてゐることである。些細な熱にすぐにも驚きふためて尊い學校の授業を缺き、一つ二つのごくかすかな咳音に遲參させる。

かくの如きことは、幼少の頃から病氣に對して、あまりに神經過敏になりすぎてゐる結果ではないかと思ふことしばしばである。文化文明の進歩發達と共に衛生思想が高まつて來たことは事實であるが、それがために神經過敏になつて病氣に驚かされる必要はなく、強い風だまいつてびくびくし、大粒の雨が降つて來たさいつては、體を心配しびくびくするやうな家庭があることするなら、適當な方法をもつて、消極的保健よりもつぎ積極的保健に留意するやう注意を喚起しなければならぬ。

病氣をおろそかにしてはいけませんが、神經過敏の先入觀を持たぬ元氣旺盛な子供を國民學校に入學させてほしい。

#### 五、躑について

國民學校に於て躑を重視することは前にも述べたが、殊に國民學校の低學年や幼稚園の子きもたちにも躑の問題は重要な課題である。この時期の子きものみについた躑は、先入的なものとなり、將來を左右することも亦大きい。幼少の頃身についた美しいならばは、國民學校の高學年に至つても連續されてゐる幾つかの具體的例も經驗したが、また一方、悪く躑けられて國民學校へ入學したものは、なかなか矯正し難いものであることも知つてゐる。幼稚園の子きもの躑については此の點充分御留意いたゞき深厚な配慮がのぞましい。左に氣をつけてほしい諸點を列擧してゐる。

よう。

(イ)自分のこまは自分で

自分で使つたいろいろな道具、お辨當箱、衣服、はきもの等の自分の身のまはりのものは、力めて自己の獨力でなす生活態度を心ぐみをしつかりを植ゑつけ、かりそめにも依頼心を起し、人をたのみさする弱い精神の持ち主ならざるやう躰けてほしい。勿論國民學校に於ても同様な態度で一貫して居るのではあるが。

(ロ)明朗な従順性

父母、先生、長上のいひつけをよくきく態度をつくつてほしい。知つたかぶつた態度を示し先生のいひつけをおろそかにするやうな態度は絶対にさげねばならぬ。すなほで明るくよく先生のいひつけを守る子は、成績も良いのは當然である。

(ハ)返事の仕方

明確な「ハイ」の返事、「さうであります」の立派な答、「わかりません」のはつきりした表示、——これをもつた幼児は、氣品がある。口をあんぐりこあけて、たゞ「ウン　ウン」こ答へるやうな應答の躰け方はよくない。

(ニ)正しい言葉つかひ

言葉は日本精神のしるしであり、幼稚の言葉は彼等の生活の表象である。正しい言葉つかひに馴れさせることは、

難しい問題であるが幼稚園に於てもくれぐれ御注意いたゞき、正しい言葉をつかはせたい。母を呼ぶに、ママ、母ちやん、おつかあ、かあさんと呼ぶものがある。『ママにおかあさまを呼んではなせいけないのですか』私の質問に對して、初等科一年の子供でも、何だか『外國人のやうだから』こ答へてにつこり笑つた。英米的範疇に基づく言葉つかひは驅逐するやうに注意したい。

(ホ)正しい姿勢に氣をつけてほしい。

(一)其の他の基礎事項を擧げる。

○皇室國家に對する國民的心情の陶冶

○國旗に對する嚴肅性の涵養

○禮法の初歩訓練

○食事の作法

○敬神崇祖の念の培養

○友達相互のくらし方

○頭・髪・手・足・爪・耳の清潔を身のまはりの整頓

○危険でない遊び方

○室内の歩き方等

以上の基礎的なものについて、それぞれ機會をさらへては正しい方向に伸ばしてあげたい。時によるこ先生自らの實踐態度によつて薰化感得させるものぞましい。